

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	1	はつらつ・雄武		整理番号	5
基本施策	1	農業の振興	評 価 責 任 者	産業振興課長 石井 弘道	
単位施策	5	農業による地域の活性化			

1 施策の概要

基本方針	加工品の企画・開発を進め、直売・ネット販売の強化、学校給食、イベントでの地産地消の拡大等により、ブランド力を底上げし、快適な農業環境づくりを進め、グリーン・ツーリズムの振興をめざし、農業体験の受け皿づくりを進める。				
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）			
	生乳を活用した乳製品の開発や、ダッタンそばによる、そば打ち体験を通じながら地産地消の底上げを図っている。	畑作転換への試験的な取組みとして、気候風土に適した作物（ダッタンソバやカラフト豆）の試験栽培を実施し、加工品の企画・開発を進めている。また、そば打ち講習会を開催しダッタンソバの普及を図っている。			
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）			
	地域の活性化に向けた、新たな付加価値を高めた製品の開発や畑作物の生産等を通じた農業の6次産業化の推進が必要である。	農業を核とした個性豊かな地域活性化に向け、農地や農業用水等の地域資源の適切な保全活動に対する支援を行って農業に対する理解を深めるとともに、これら資源を活用した農村活性化、さらには6次産業化等の取組を促進する必要がある。			

2 基本施策指標

指標	指標名	定義等	年度					目標値（H24）
			計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
指標1	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	中山間地域等直接支払制度	農務係	94,105	A	継続/現状維持	A
②	農畜産物を活用した食品の開発調査推進事業	農務係	1,134	A	継続/拡充	A
③	畜産担い手育成総合整備事業（再編整備型事業）	農務係	136,008	A	継続/現状維持	A
④	雄武町農地基本台帳システム更新事業	振興係	3,675	A	終了	A
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	ブランド力の底上げや新たな特産品開発によって地域の活性化が図られることから妥当と判断する。
② 有効性	A	本施策の実施により地域の活性化が図られることから、有効であると判断する。
③ 効率性	A	本施策は効率的に実施されており、事業費等削減の余地はない。
④ 公平性	A	ブランド力の底上げや新たな特産品の開発は、新たな雇用創出等にもつながることから、町民の理解が得られるものと判断する。
⑤ 町民意見の反映	B	町民の意見を聞く場は設けていないが、関係機関との協議等により反映している。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
加工品の企画・開発は地域の活性化につながるものであり、今後においても必要不可欠である。	同左	

今後の方向性	今後の方向性	今後の方向性
継続/拡充	継続/拡充	
ブランド力の底上げや新たな特産品開発は、地域の活性化につながるものであることから、今後、一層の拡充が必要である。	同左	
*今後の方向性の区分 ○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止		